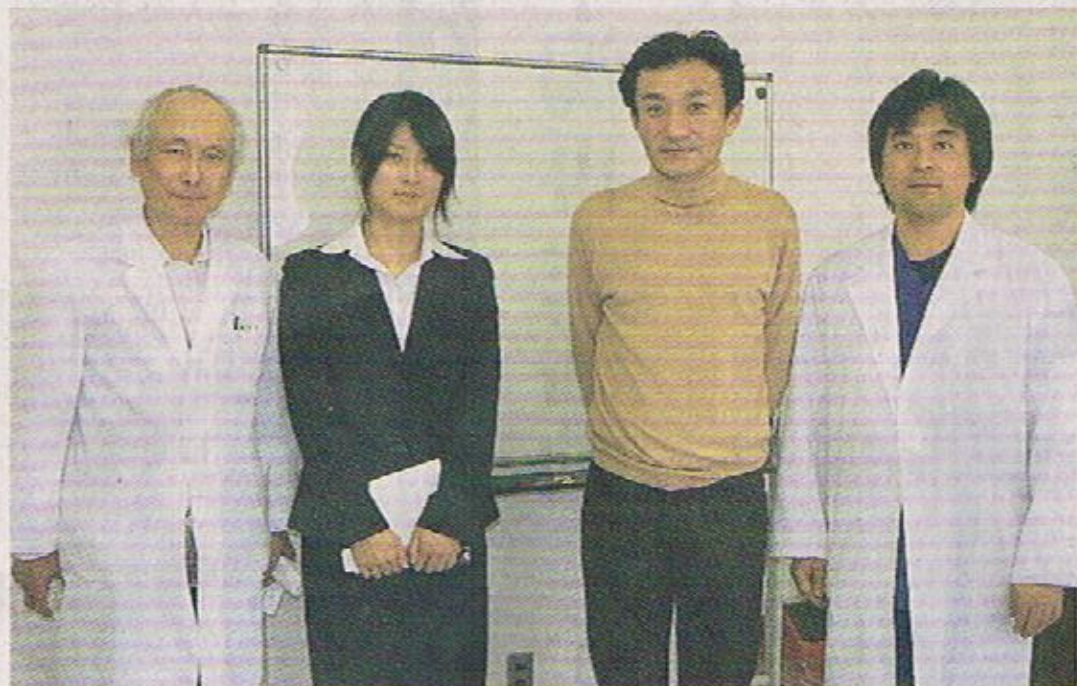


# 不登校児支援 心理面から

## 周南病院、来月1日に外来新設



小児科心理外来の設置に向け意気込む（左から）周南病院の橋本豪院長、受田恵理さん、倉成央社長、沼田光生理事長＝周南市

周南市御幸通の医療法人仁徳会「周南病院」（沼田光生理事長）は4月1日、小児科の開設に合わせ、不登校などに悩む子どもたちの復帰を支援する小児科心理外来を新たに設ける。小児科医の診断のもと、専門の心理士が不登校などの学校不適応や軽度の発達障害を抱える児童生徒とその保護者らを対象に面接やカウンセリングを行い、心理面から支援する。同外来は東京都内の大学病院など全国でも数カ所しか設置されておらず、県内では初めてという。

「人間にとって一番大切なのは心。心の問題を解決せずして対症療法ばかりしている意味がない」という沼田理事長（46）の信念から設置に至った。小児科心理外来は、従来の小児科・精神科では対応していなかった心理的サポートを行うのが特徴。18歳までの学校不適応児らに検査を実施して支援方針を決め、箱庭療法やゲームを中心としたプ

レイセラピー、課題解決型の「再決断療法」と呼ばれる面接やカウンセリングを実施する。集団への適応力や社会性を高めるために院内学級も設置する計画だ。

同外来新設に伴い、沼田理事長が5年前に東京で知り合った心理カウンセラーの倉成央さん（47）が経営する「メンタルサポート研究所（東京都）と提携。同研究所の心理士、受田恵理さん（23）を新たに採用する。当面は週1回のペースで受田さんがカウンセリングに当たる。受田さんは子どもたちのかかわりの中で、子どもが言葉にできない悩みなどを聞き、心理的な支えになりたい」と話している。

同病院では小児科心理外来のほか、新たな取り組みとして、4月から受田さんが、周南地域の老人福祉施設などを訪問して認知症患者のカウンセリングも実施する。問い合わせは同病院（☎0834・21・0357）へ。